

【3】三元十八神道次第

写本1冊

大阿闍梨法印妙海

授与

〔書名よみ〕さんげんじゅうはちしんとうしだい

春光山円覚寺

〔著編者〕未詳 〔写刊年次〕慶応四年（一八六八）

尊岸拝写

〔外題〕三元十八神道次第

〔内題〕三元十八神道次第

〔その他題〕ナシ

〔残欠状況〕全 〔保存状況〕良好

〔装訂〕袋綴装（紙縫綴）

〔丁数〕一三丁

〔本文用字〕漢字

〔一面行数〕八行

〔表紙〕

本文共紙 〔法量〕縦一六・八糎×横一七・八糎 〔料紙〕斐紙（雁皮紙） 〔界線〕ナシ 〔書入〕朱書注記（首頂点・見出点・合点・圏点・朱引） 〔印記〕ナシ 〔備考〕尊岸函66。

〔奥書〕（一二丁才・伝授識語）

右十八神道次第吉田家之大秘書也

智積院一老智門法印以所持之

本書写者也

安永四^{乙未}歳卯月十九日書畢

安政五^午年三月吉祥日

御流神道玉水流七世

仏子妙海求之

（一二丁才・書写識語）

慶應四^{戊辰}年十月廿一日書写之

伝師 津軽弘前 金剛山現住

院家

〔解題〕

本書『三元十八神道次第』は、中世に隆盛をみせた吉田神道を淵源として、近世の御流神道玉水流において相伝された神道次第書である。「三元十八神道」とは、吉田兼俱（一四三五―一五一一）が唱えた吉田神道の原理で、神道を体（三元）・用（三妙）・相（三行）に分け、そのうち体の天道・地道・人道の「三元」にそれぞれ六神道が加わり「十八神道」としたものの。この吉田神道の基本理念にもとづく神道修法として近世期にいたるまで三元十八神道行事が執行され、その次第をとりまとめたものが『三元十八神道次第』にあたる。本書は東京大学宗教学研究室ほか各所に伝存が確認され次第内容も概ね同一であるが、円覚寺所蔵本の特徴として注目すべきは、それが「御流神道玉水流」の相伝にかかる点である。

前掲の奥書によると、この「吉田家之大秘書」を所持していた京都・智積院の智門相伝本を安永四年（一七七五）に書写したものを、安政五年（一八五八）に御流神道玉水流の第七世・妙海（一八三一―一九〇七）が求得し、さらに津軽弘前の金剛山最勝院家となった妙海より、慶応四年（一八六八）十月（明治改元は同年九月八日）に円覚寺第二十四世・尊岸（一八〇三―一八七二）が伝受・書写した経緯が知られる。御流神道は真言宗に伝わる神道（両部神道）の一派で、玉水流は活濟（一七〇八）を開祖とする。南山城・西福寺を基点としたが、活濟より続いた西福寺内での法流の正嫡は第五世・長濟で途切れ、智積院・

饗啓の流派が本流となった。その四代後の妙海が六波羅蜜寺の契理より受法することで復流し、爾後、幕末明治期には西福寺における玉水流復興を志すも記録なきままに忘れ去られてしまったとされている。

本書は、そのような御流神道玉水流が津軽一円にも伝播していたこと、そして深浦円覚寺にも相伝されていたことを如実に物語る点で、ひいては幕末明治期における宗教環境を考える上で、じつに興味深い。同軌の資料としては、円覚寺には他にも、第二十六世・義観（一八五五―一九二二）相伝『神道護摩私大事』（報告書第二集【19】渡辺麻里子解題参照）をはじめ、『両部習合灌頂次第』『御流神道伝授聞書 附灌頂見聞記』（本報告書【5】【6】解題参照）など御流神道玉水流ゆかりの伝本が現存している。最新の寺院聖教調査として現在進行形にある御流神道玉水流研究に資するとともに、北東北における「神道の地域センター」としての津軽（弘前最勝院・深浦円覚寺）の存在意義を再定位する上でも、本書に秘められた学術的意義はきわめて大きいものがある。

〔参考〕

- ・ 出村勝明『吉田神道の基礎的研究』（神道史学会、臨川書店、一九九七年）
- ・ 特設展示「南山城井出町西福寺神道灌頂資料」（国文学研究資料館、二〇一四年）
- ・ シンポジウム「南山城と神道灌頂―井出町西福寺所蔵資料をめぐって」（『仏教文学』第四一号、二〇一六年四月）所収、中山一麿「西福寺の歴史」／向村九音「西福寺と椿井文書」／伊藤聡「西福寺の神道灌頂」／鈴木英之「神道灌頂道場図の復元」
- ・ HP「橘氏ゆかりの御寺 遍照山西福寺」 <http://henjozan.xsrv.jp/>

「神仏習合…玉水流について」

<http://henjozan.xsrv.jp/category5/entry10.html>

「神仏習合…玉水流法脈」

<http://henjozan.xsrv.jp/category5/entry11.html>

- ・ 木下智雄「日光院英仙が相承した唯一神道について」（『京都宗教論叢』第二二号、二〇一八年）
- ・ 木下智雄「日光院英仙が相伝した唯一神道の聖教について」（『印度学仏教学研究』第六七卷第二号、二〇一九年）
- ・ 『最勝院史図版編』壹・貳（最勝院史編纂委員会、二〇二〇年）
- ・ 『寺院文献資料学の新展開』第一〇巻『神道資料の調査と研究Ⅰ 玉水流特集』（伊藤聡・編、臨川書店、近刊）

（原 克昭）

三元十八神道次第

三元十八神道次第
陰陽行儀 神變通力
先鳥居作法
次進圓座
次着座
次打鳴
次護身神法
次太元正政神并安須

次漂水加持陰陽逆順三元九度
陰入陽出岐神印相明言阿南
以下四行
本書曰
一字下書

天元地神變加持
地元地神通加持

人元人神力加持

次根本加持

高天原神雷坐皇親神
漏岐神漏美乃命并天波

羅伊玉意喜餘目出王止申
事乃由并聞食止申壽

次三元表白

无上靈寶天元神道神變加持

无上靈寶地元神道神通加持

无上靈寶人元神道神力加持

抑三元神道之齋場五大所成之
靈壇修真宗源之砌為總受圖

次瀝水加持 三度

波羅伊玉喜餘目玉

次座跡神社 勸請每社降臨此座

謹請 伊勢大神宮別宮小社

齊場所日輪大神宮余餘社

神祇宮八神殿

石清水別宮小社

宇佐八幡宮

正八幡宮

五所別宮

賀茂下上大明神

松尾大明神

平野大明神

稻荷大明神

春日大明神

大原野大明神

句々智命 阿遇槌命 垣安命

金山彦命 罔象女命

天八下魂命 天三魂命 天倉魂命

天八百日魂命 天八十万日魂命

次三天神咒 手持大麻四宮壇場

陰陽逆順以上三度

吐普加身 依身多女

寒言神尊 利根陀見

利尊神言寒見陀魂

波羅伊玉意喜餘目玉

次天地人神啓祝

斯哉大元尊神國常尊天照太神

乃神光神威 昔乃如十世經光

死念死心 仁天理 陽九年

伊弉諾伊弉冉尊 自有誓合降

神威成人以陰乳為母 陽精為父

次座揖
次立揖
次退下

右十八神道次第吉田家之大秘書是
智積院一老智門法印以所持之
本書寫者也

安永四乙未歲卯月十九日書畢

安政五年年三月吉祥日

御流神道玉水流七世

佛子妙海求之

我仕吉田家之本書竹本木瀝鳥子金泥卦
惣長五寸七分以余橫寸半分程豎卦之
四寸分六分卦片而行上卦外六分下卦外
三分也金襴表紙

金紙表題 長三寸三分 橫九分

三十九神道次第

長三寸三分

慶應四戊辰年十月廿一日書寫之

傳師津輕弘前金剛山現任

院家

大阿闍梨法印妙海

授與

春光山園覺寺

尊岸并寫